



陸 普副官ヨリ陸軍技術本部長へ通牒

首題機関銃上月二十二日附陸技本 甲第六七四號上
申ノ通定メセラルヘキニ付該圖面(概説共)百十二部送付
セラレ度

陸普第七四六七號 昭和貳年貳月七日

陸 普副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒
首題機関銃別紙圖面ノ通定メセラレシニ付該圖
面(概説共)一 部送付ス

陸普第八六六號

昭和拾參年貳月拾七日

注意

昭和拾参年参月拾六日

附屬品送付濟

教育総監部、及関東軍行ハ（）内ヲ別紙配布表ノ通

ニ改メ作ル

陸

軍



別冊別送

陸技本甲第六七四號

九七式車載重機關銃假制式制定ノ件上申

昭和十二年十一月二十二日

陸軍技術本部長 久村 龍樹

陸軍大臣 杉 山 元 殿

首題兵器別圖ノ通假制式制定相成度左記ノ通書類相添へ上申ス

添 附 書 類

九七式車載重機關銃假制式兵器圖 (附表 一葉)
圖面 二葉

同 説明書

同 細目名稱表

同 審査經過ノ概要

同 概 説

一 部
二 部
二 部
二 部
二 部



九七式車載重機關銃審査經過ノ概要

一、審査ノ起因

現制九一式車載輕機關銃ハ小銃ト同一挿彈子ヲ其儘使用シ得ルノ特長ヲ有スルモ其ノ機構複雑ニシテ故障生起ノ際ハ車内ニ於テハ之カ排除極メテ困難ニシテ實用上不利尠カラス且六耗五口徑ハ威力乏シクシテ輕裝甲車ニ對シテモ對抗シ得サル狀況ナルヲ以テ之カ改正ノ必要ヲ感シ昭和八年八月以來其研究ニ著手シ各方面ヨリ檢討ノ結果昭和十年九月設計要領ヲ立案シ審査ニ著手ス

二、審査ノ經過

1. 設計要領ノ決定

設計要領

- イ、口徑七耗七トス
- ロ、九二式普通實包ヲ使用ス
- ハ、瓦斯利用式トシ機構簡單車内ニ於ケル操用便ニシテ教育容

陸軍

陸軍技術本部

昭和十年十月廿二日

易ナルコト

ニ、故障少ク萬一故障ヲ生起セル場合ニ於テモ之カ排除容易ナルコト

ホ、一〇〇〇米附近迄命中精度ノ良好ナルコト

ヘ、照準具ハ眼鏡照準具ノ外簡單ナル照門照星ヲ設クルコト

ト、据銃ノ際肩著ヲナシ得ル如クスルコト

チ、車外ニ於テモ使用シ得ルコト

リ、所要ニ應シ砲塔等ニ裝著シテ對空射撃ヲ爲シ得ルコト

2. 第一次試作品及其成績

第一次試作トシテ試製B號輕機關銃（甲號ト稱ス）及八九式旋回機關銃（乙號ト稱ス）ヲ車載ニ適スル如ク改修ヲ加フ

昭和十一年一月第一次試作品完成セルヲ以テ富津射場ニ於テ第一回試験ヲ實施シ其結果甲號銃ノ様式ヲ採用スルニ決シ實用方面ノ意見ヲ求ムルコトトス

昭和十一年五、六月ニ於ケル實用試験成績

戰車第二聯隊判決ノ要旨

一、試製車載重機關銃ハ中戰車及輕裝甲車裝備用トシテ若干ノ改修ヲ加フレハ實用ニ適スルモノト認ム

二、既成戰車及裝甲車ハ銃眼其他ヲ改修シ將來製作セラルヘキ戰車裝甲車ハ本銃ニ適スル如ク裝載部位ヲ設計シ全戰車裝甲車共ニ本銃ヲ裝備スルヲ要ス

陸軍騎兵學校判決ノ要旨

本銃ハ輕機ニ比シ形態及重量稍々大ナルカ如キモ車内ノ操作ニハ特ニ支障ヲ認メス依ツテ銃床、槓桿、握把、眼鏡目盛、表尺照星照門等ノ改正單發裝置ノ廢止、蹴出不良ニ依ル故障ノ改善等ヲ實施スレハ一般的ニ故障輕易且其排除容易ナルヲ以テ既往並將來制定セラルヘキ戰車ニ裝備ヲ希望スルモノナリ

3. 第二次試作品及其成績

第二次試作品ヲ名古屋工廠ニ注文製作ス

昭和十二年七月名古屋工廠ニ於ケル第二次試作品完成セルヲ以テ富津射場ニ於テ機能、命中及耐久性ノ試験ヲ實施セシニ命中精度及耐久性ニ於テハ概ネ所期ノ目的ヲ達成シ得タルモ機能ハ第一次試作品ニ比シ稍々不良ニシテ其原因彈倉ニ基因スルモノト認メラルルヲ以テ之カ研究改善ヲ爲スニ決ス

昭和十二年七月前記試験ニ引續キ當時完成セル無起縁實包ヲ以テ試験間機能最モ不良ナリシ銃ト彈倉トヲ用ヒ陸軍科學研究所構内射場ニ於テ機能試験ヲ實施セシニ機能極メテ良好ニシテ全然故障ヲ生起セス

依リテ本銃ニ八九二式普通實包ヲ無起縁トセル實包ヲ使用スルコトトシ以テ故障ノ絶無ヲ期スヘク圓筒包底ヲ無起縁ニ應スル如ク改正ス

昭和十二年八、九月ニ於ケル實用試験成績

實用試験ニハ無起縁實包ヲ使用ス

陸軍戰車學校判決ノ要旨

戰車及裝甲車用機關銃トシテ概シテ適當ナルモノト認ムルモ八九式戰車ノ爲ニハ彈倉ニ就キ大ナル改修ヲ要ス（前方銃ハ二〇發彈倉ヲ用フルモ尙俯角ヲ附與シ得スコレカ對策トシテハ一〇發彈倉ヲ用フルコトス）

其他細部ノ點ニ就キ改正意見アリ何レモ容易ニ改正シ得

陸軍騎兵學校判決ノ要旨

本銃ハ第一回試作品ニ對スル改修希望部位ハ大体ニ於テ改善セラレ其機能概シテ良好ナルモ前回ニ於テ殆ト其發生ヲ見サリシ抽筒不良及送彈不良ノ故障多發ノ傾向アルヲ以テ將來ノ改修ニ依リ此ノ故障ヲ除キ得ハ實用ニ適スルモノト認ム

（供試銃ハ何レモ現制半起縁實包ヲ用フル如ク製作セラレアルヲ以テ無起縁實包ヲ使用スルトキハ銃ニ依リテハ抽筒子ノ機能

十分ナラサルモノアリテ抽筒不良ノ故障ヲ生起シ從テ送彈不良ヲモ併發セルモノニシテ若シ最初ヨリ無起緣實包ニ適應スル如ク圓筒ノ包底面及抽筒子ヲ製作セハ本種故障ハ生起セサルモノトス

昭和十二年十月小倉工廠製ニ係ル本銃一〇挺ノ下附ヲ受ケ富津射場ニ於テ機能命中ノ試験ヲ實施セシニ本銃モ現制半起緣實包ヲ使用スル如ク製作セラレアルヲ以テ銃ニ依リテハ抽筒不良ノ故障ヲ生起スルモノナキニ非サルモ一般ニ概ネ機能良好ニシテ命中精度又概シテ可概ネ實用ニ適スルモノト認ムルヲ得タリ

以上ニ依リ概ネ所期ノ目的ヲ達成シ得タルモノト認メ圓筒包底面ヲ無起緣實包ニ應スル如ク改メ且銃床其他ニ若干ノ改正ヲ施シ圖面ニ所要ノ修正ヲ加ヘ茲ニ假制式上申スルニ至レルモノトス

九七式車載重機關銃概説

昭和拾貳年十二月廿貳日

陸軍技術本部

陸軍

第一 目的

現制九一式車載輕機關銃ニ比シ取扱至便ニシテ威力大ナル機關銃ヲ得ントスルニアリ

第二 構造機能

一 本銃ハ銃身、「ガス」唧筒、尾筒、銃尾機關、彈倉用心鐵、床尾保持環、防彈器、脚及眼鏡ノ主要部ヨリ成リ各種戰車裝甲車等ニ裝載スルモノニシテ銃眼ニ依リ車体ニ裝著ス

ニ 銃ノ機構ハ「ガス」利用式ニシテ箱彈倉（二〇發入）ニ裝セル實包ヲ裝填シ發射ニ依リテ生スル火藥「ガス」ノ一部ハ活塞頭ニ作用シ遊底ヲ後退セシメ同時ニ藥莢ノ抽出竝蹴出ヲ行フ復坐ばねノ彈撥力ニ依リ遊底ハ前進シ次發ノ實包ヲ裝填及發射シ自動的ニ之ヲ復行セシメ得ルモノトス

三 照尺ハ射距離二〇〇米乃至一五〇〇米ヲ有シ轉輪ノ操作ニ依ル孔照門トス

四 防彈器ハ銃ヲ車体ニ裝著シタルトキ銃眼ノ前方ニ露出スル銃身、放熱筒、規整子及「ガス」唧筒ヲ被包シ以テ敵彈ニ依ル銃ノ損傷ヲ防止スルニ供ス

五 眼鏡ハ射距離二〇〇米乃至一四〇〇米ニ應スル射距離分畫竝數字ヲ刻シ尾筒左上方ニ裝著ス

六 脚ハ著脱式ニシテ銃ヲ地上ニ於テ使用スル際放熱筒照星座前方ニ裝著ス

七 銃ニハ屬品、豫備銃身一、空包銃身一、(放熱筒「ガス」唧筒支籠規整子共)ヲ附ス

第三 主要諸元

主要諸元左ノ如シ

銃

口 徑

七 耗 七

銃ノ全長	約	一米一 ^{四五} 八
銃身長	約	〇米七二六
銃身高（脚ヲ使用シタル場合）	約	〇米三七 ^{八〇}
銃（保持環 脚ヲ除ク）及銃口蓋	約	一〇呎二〇〇
彈倉（空 實包二〇發入 虛	約	〇呎四五二
保持環	約	〇呎九九五
防彈器	約	〇呎九八五
脚	約	三呎一〇〇
打殼受	約	〇呎九七二
銃箱（空虛）	約	一呎〇一五
裝彈器匣（裝彈器共）	約	一呎八呎六〇〇
屬品匣（内容品全備）	約	二呎二五〇
豫備品匣（内容品全備）	約	六呎五七〇
	約	〇呎六九〇

陸軍

0813

眼

對物鏡有效徑	射出瞳孔徑	視界	倍率	重量	鏡身
--------	-------	----	----	----	----

一八耗	六耗	三〇度	一五倍	約 三 〇 〇	約 二 五 〇
-----	----	-----	-----	------------------	------------------

昭和十二・十・東京助川納

0814

銃砲



陸技本甲第九二號

九七式車載重機關銃圖面並概説送付ノ件通牒

昭和十三年二月十四日

陸軍技術本部副官 伊東保生

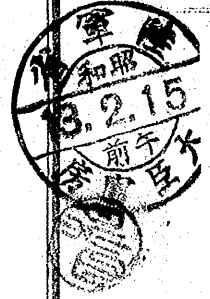
陸軍省副官 楠淵鎭一殿

客年十二月七日附陸普第七四六七號通牒ニ係ル首題ノ圖面並概説
各百拾貳通送付ス

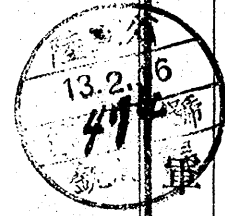
(圖面 參枚)
概説 壹枚

追テ現品ハ陸普番號押捺ノ上銃砲課へ直送可致ニ付承知セラレ度

多
一四七四



又 南 澤 今朝男 53



昭和十二・十・東京 助川 納

0815

保存期限



決裁指定



決行指定



政務次官 回付 決裁前後 連帶 參與官 課名

受領 番號 參第一四七四號

件名 九七式車載重機関銃細目名称表制定ノ件

起元廳(課)名

陸軍技術本部

決行(決裁)後 回覧課名

陸軍

大臣



次官



高級 副官



書記官

審案 筆記者

主務 局長

主務 課長

主務 課員

主務 副官 官房御用掛

主務 局長

受領 號番 鏡三第 四七四號

連帶

局長

課長

大 臣 官 房

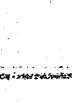
受領 昭和三十二年十一月二十三日

決行(決裁)後 回覧 局長

課長

昭和三十二年十一月二十三日

昭和三十二年十一月二十三日



陸普 副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所へ通牒
首題細目名稱表別紙ノ通定メラレシニ付平時用
部送付ス

追テ本表、配賦八九一式車載輕機関銃ノ配賦區分ニ依ラ
レ度申添フ

陸普第三二二六號

昭和拾四年四月拾六日

本表ハ別紙原稿ニヨリ官房ニ於テ六〇〇部印刷相成度


附屬品送付表

昭和拾參年六月拾日



航空本部	築城部本部	技術本部	造兵廠	兵器本廠	教育總監部	參謀本部	兵器局	整備局	兵務局	大臣官房	配賦箇所																								
五	一	一八	五	三九	三	三	四	二	二	二	平時用 非常用																								
<table border="1"> <tr> <td colspan="6"></td> <td>近衛</td> <td>憲兵司令部</td> <td>侍從武官府</td> <td>練武學校</td> <td>運輸部</td> <td>配賦箇所</td> </tr> <tr> <td>第六</td> <td>第五</td> <td>第四</td> <td>第三</td> <td>第二</td> <td>第一</td> <td>三</td> <td>二</td> <td>一</td> <td>一</td> <td>九</td> <td>平時用</td> </tr> </table>																		近衛	憲兵司令部	侍從武官府	練武學校	運輸部	配賦箇所	第六	第五	第四	第三	第二	第一	三	二	一	一	九	平時用
						近衛	憲兵司令部	侍從武官府	練武學校	運輸部	配賦箇所																								
第六	第五	第四	第三	第二	第一	三	二	一	一	九	平時用																								

兵器細目名稱表九七式車載重板團銃 配賦表

	決行指定	局長	決裁指定	永久	保存期限
---	------	----	------	----	------

房官臣大		課局務主		大臣委		件名 九七式車載重機閘銃細部圖送付ノ件	受領 番號 參第一四七四号其一起元廳(課)名 技術本部	政務大官 回付 決裁前後連帶 課名	陸軍
了結	領受	出提	領受	號番	大臣委				
昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	銃三并四七四号	局長 主務	政務 次官			
(裁決)行決後 覽回		帶連			高級 副官	參與官		決行(決裁)後 回覽課名	
局長		局長			主務 課長	書記官			
長課		長課			主務 副官 官房御用掛				
					主務 課員	筆記 審案			

普副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所ハ
首題細部圖(同録所表添付圖共五十九枚) (部
送付ス)

追テ既配布ノ第一二三葉ハ本圖ノモト引替
シ度申付

聯普第四六四九號

昭和七年八月二日

關東軍行ニハ()内ノ別紙配賦表ノ通ニ作ル

昭和七年八月十六日

附屬品送付済



現品別送

十二年
参考二四七四番其二

陸技本甲第三九四號

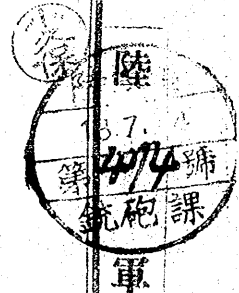
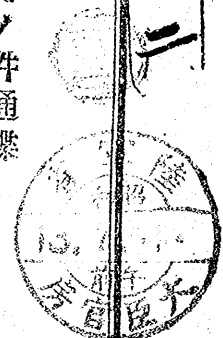
九七式車載重機銃圖面送付ノ件通牒

昭和十三年七月三日

陸軍技術本部副官 筒井三郎

陸軍省副官 榎淵鎧一殿

本年二月十七日附陸普第八六六號制定ニ係ル首題兵器ニ對スル細部圖面(目錄、附表、添附圖共五拾九枚)調製中ノ處完了セシニ付百拾貳通送付ス
追テ既配賦ノ第一、三、五、藥ハ本圖ノモノト引替廢棄相成度申添フ



番147